教育情報
STEP
2024. 12. 10
発行：嶺南教育事務所
TEL：0770-56-1309（代表）
FAX：0770-56-1391
MAIL: reo-k@chive.ocn.ne.jp

学習をする子ども自身が主語（子どもの視点）への転換～ＵＤＬを通して～

令和の日本型教育では、すべての児童生徒に「個別最適な学び」を提供することが求められています。ここには、通常の学級に在籍する学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒（小中学校で約8.8%）も含まれます。今回は、障がい等の有無にかかわらず、すべての学習者が自分に合った方法で学び続けることを目指す「**学びのユニバーサルデザイン**(Universal Design for Learning：以下、**UDL**)」に注目し、子どもの視点での「わかりやすさ」や「学びやすさ」について考えてみましょう。

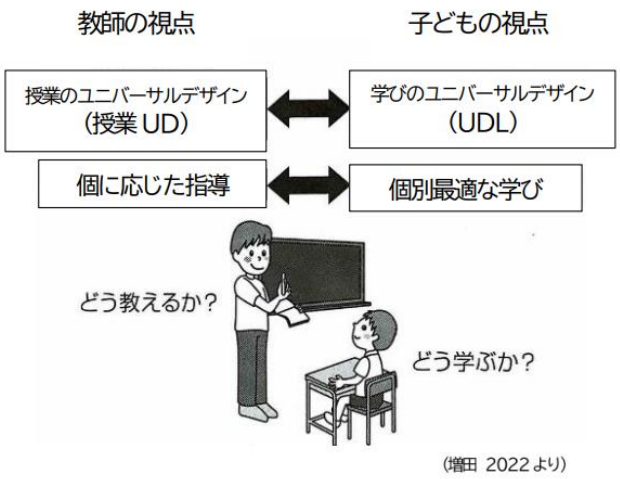
レオ先生：UDL（学びのユニバーサルデザイン）について、教えてください。

UDLは、米国の教育研究機関CASTが提唱した概念です。これは、多様な子どもたちが教室で学ぶ際に直面するバリア（つまずき）を最小限に抑え、子ども自身が自分に合った方法で学習を進められるようにする学習環境のデザインを指します。

具体的には、すべての子どもたちが学びの機会を得られるように、**カリキュラム（学習環境）に柔軟性をもたせ、子どもが自分に合った学び方を選択できる環境**を作ります。

UDLは、特別支援教育や個別学習と同義ではありません。障がいの有無にかかわらず、すべての児童生徒に対して、**子どもの視点で「わかりやすく」「学びやすい」授業を提供するための枠組み**です。

授業UD（授業のユニバーサルデザイン）については、これまで勉強し実践してきました。授業UDとUDLの違いについて教えてください。



授業UDは、学力の優劣や発達障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが、楽しく「わかる・できる」ように、工夫・配慮された通常学級における授業のデザイン（筑波大学附属小学校 桂聖）のことです。可能な限り多様な子どもを包摂した授業づくりを目指し、教師が必要に応じて「個に応じた指導」や「合理的配慮」を行います。

一方、UDLでは、教師が「どう教えるか」ではなく、**子どもが「どう学ぶか」**という視点を重視し、「学びのエキスパート」を育てます。子どもが自分の目標をもち、自分に合った学び方を見つけ、必要なオプションを使いながら計画的に学ぶ経験を通して、「学びのエキスパート」になるよう促していきます。教師は、学びの伴走者として、子どもの学びを助ける環境づくりをしていきます。

このように、授業UDは「教師の視点」の概念ですが、UDLは「子どもの視点」の概念です。同様に、「個別最適な学び」は「子どもの視点」から整理した概念ですが、この概念を「教師の視点」にすると「個に応じた指導」になります。**これまで取り組んできた授業UDに「子どもの視点」をプラスしてみると、教室にいる多様な子どもたちにとっての「わかりやすさ」「学びやすさ」によりつながります。**

UDLが目指す「学びのエキスパート」とは

- ○目的をもち、やる気のある子ども
- ○いろいろな学習リソースや知識を活用できる子ども
- ○方略的で、目的に向けて学べる子ども

授業UDは「授業をユニバーサルデザインする」ので、主語は教師となり、ＵＤＬは「学び（学習）をユニバーサルデザインする」ので、子ども自身が主語になるのですね。
「学びのエキスパート」は、主体的に学ぶことができる子どものイメージと重なりますね。

〔裏面へ〕

UDL についてもっと理解したいのですが、大切なポイントについて教えてください。

1 障がいがあるのは子どもではなくカリキュラム

・学びのゴール
・教材
・方法、手段
・評価

ポイント①

学習の困難は「カリキュラム」にあると私たちの発想そのものを転換する必要がある。

2 学びのゴールを明確にする

子どもが何を学ぶのか
子どもに何を教えるのか

ポイント②

授業のゴールである学習課題を解決するためには、多様な学び方の進め方がある。

3 事前にバリアを見つけオプションを用意

①「なぜ学ぶのか」…取り組みのための多様な方法を提供
②「何を学ぶのか」…提示（理解）のための多様な方法を提供
③「どのように学ぶのか」…行動と表出のための多様な方法を提供

ポイント③

学習の計画段階でオプション（学びの支援）を用意して、カリキュラムに柔軟性をもたせ、調整可能な形にし、学習者自身の多様な学びに対応する。

UDL の第一のポイントは、障がいの有無にかかわらず、多様な子どもたちが学びにくくなる原因は、ゴール（目標）、教材、方法、評価といった「カリキュラム」にあると考えます。平均的な子どもに合わせた授業や画一的な学習方法・教材教具では、授業にうまく参加できない子どもが出てくる可能性があります。そのため、**発想を変えて全員が学べているかどうかを振り返りながら授業を作ります。**

第二のポイントは、学びのゴール（単元でつけたい資質・能力）を明確にすることです。例えば、作文の学習において、「校外学習で感じたことを表現し、共有すること。」が学びのゴールだとすれば、学習の目的を達成する方法は、「手書き」や「自力解決」以外にも、学び方はあるといえます。つまり、**「子どもが何を学ぶのか」という学習の目的を明確化し、そのゴールに向かってそれぞれ得意な方法で学びを進めることができるようにします。**

第三のポイントは、事前にバリアを見つけ、オプションを用意することです。どんなにすばらしい授業でも、学習を困難にさせる原因が生じることがあります。UDL では、これを「バリア」と呼びます。授業計画の段階でこの「バリア」を特定し、取り除くためのオプション（学びの支援）を提供します。このように**子ども自身が最適なオプションを選べるようにすることで、多様な学び方に対応できるようにします。**

UDL は、
① 子どもの視点での授業実践
② 柔軟な学習環境
③ 学びやすい選択肢の提供
④ 自己調整する力の育成
といった点で、「個別最適な学び」に似ているような気がします。

全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの**「指導の個別化」**が必要である。

（文部科学省:個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実より抜粋）

そうですね。「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」を子どもの視点から整理した概念ですが、「指導の個別化」と「UDL」とでは共通点がありそうですね。

個別最適な学びにおいては、多様な子どもたちがいる中で、特別な支援を必要とする子どもにも、困っていないように見える子どもにも、自己調整しながら学びを進めることができる力をつけていくことが必要です。その際、UDL が子どもにとって「わかりやすさ」や「学びやすさ」を考える際のヒントになると思います。

子ども一人一人の学び方は違うので、**教師の視点だけでなく、子どもの視点にも立った授業改善**が必要だと分かりました。子ども自身ではなくカリキュラム（学習環境）に障がいあるという発想に切り替えて、UDL を取り入れた授業づくりをしていこうと思います。授業を真面目に受けているように見える子どもの中にも、静かに困っていて支援を必要とする子どもがいるかもしれません。様々なつまずきを想定し、その対処法や選択肢を**事前に考えておくという先取りの支援**を心がけたいと思います。

さらに学び続ける教師、レオ先生におすすめの「R-cafe」は次ページへ

〔参考文献等〕
- Web サイト 「UDL ラボ」
- 学びのユニバーサルデザイン（UDL）ガイドライン
- 学びのユニバーサルデザインと個別最適な学び　増田謙太郎　著
- 指導と評価２０２０年２月号 「学習支援から学習者の発達支援へ―UDL を支える足場的支援―」 川俣智路　著
- 授業 UD 新論～UD が牽引するインクルーシブ教育システム～　菊池哲平　著
- 授業のユニバーサルデザイン No.12 学びのエキスパートを育てる UDL バーンズ亀山静子 監修

第3回 R-cafe
「2024 年を振り返って」

12月24日（火）11:00～11:30

（11:30～11:45 フリートーク）

冬休み、ちょっと一息ついて、４月からの実践を一緒に振り返ってみませんか？「授業づくり」「学級づくり」「特コの仕事について」…等々、みんなでワイワイ語り合いましょう。１月からの実践のヒントをぜひ見つけに来てください！

途中入室・途中退室 OK!
飲み物片手に、リラックスしてご参加ください。

対象者

特別支援教育に関心のある方なら**どなたでも！**
（教員・行政職員・保育士・福祉関係者…等々）

方 法

オンライン（Zoom）
＊参加申込は不要です

★ 学校名＿お名前（〇〇小＿△△）で参加してください。

＊ 先生方同士での情報共有の場として、課員への質問の場として、お気軽にご参加ください。もちろん、日々のお悩みやこの機会に聞いてみたいこと等も、なんでもお話しください。
＊ 特学担任や特コの先生はもちろん、教務の先生、管理職の先生…たくさんの先生方のご参加をお待ちしています。

問い合わせ先 ： 嶺南教育事務所 特別支援教育課